
(令和5年7月12日掲載)

無意識に潜む思い込み



バイオレット・パチレオ (VIOLET・PACILEO)

アンコンシャスバイアストレーナー。英アストン大学国際ビジネス経済学部卒。日本の株式市場や香港のヘッジファンドで勤務後、2020年に大豊町に移住し「クロスフィットおおとよストレングス」新設。NHKワールドリポーター、大豊町商工会女性部副部長、「VP Advisors」代表取締役、「ストラテジックキャピタル」社外取締役。

「この外国人著者は日本語が上手」と思った方が、いらっしゃるかもしれません。

15年ほど前、東京で日本株式運用部のファンドマネジャーを務めていた頃、同じく日本で育ったハーフの同僚と投資先を訪問した際に、名前がカタカナなのか漢字なのかで、相手の態度がガラッと変わる（無意識のうちに見た目や名前で判断される）ことは日常茶飯事でした。

この「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」は、全ての人が持っています。人間は自分の身を守るために体や感情で体験した情報を脳に蓄積し、素早く反応ができるようにしています。言い換えると、反射能力です。

例えば、ピンクを女の子が好んでいるのを見て育つと、「ピンク＝女の子の色」と脳が直感的に判断します。実は、ピンクは1900年頃まで欧州では貴族が男の赤ちゃんに着せる色でした。1940年代に経済不況が続いた米国で、デパートが消費者にもっと子供服を買わせようと考えた結果、マーケティング戦略を打ちました。「赤ちゃんが生まれたらプレゼントをしよう！女の子にはピンク、男の子には青！」。これが日本にも渡り、固定観念が広まったと思われます。

アンコンシャス・バイアスのうち、「ピンクは女の子」「○○だから、△△だ」という直感的判断は「ステレオタイプ・バイアス」といいます。

1970年、米国5大オーケストラの女性演奏者比率は5%以下でした。1980年代にかけて入団審査で演奏者の姿が分からないようにカーテンを導入すると、女性演奏者の審査通過率が増加。差別の意識がなくとも、力のある女性の応募者がはじかれていたことが発覚しました。その後は性別の固定観念に左右されず優秀な演奏者を採用できるようにな

り、オーケストラの質も向上したそうです。

専門家や権威のある人に言われると深く考えずに信用してしまうのが「権威バイアス」です。アシスタントの指摘を聞かずに会計事務所の提出した決算内容を信頼しそのまま通してしまうケースのように、無意識の権威バイアスが働き、費用や時間を無駄にして見直す機会を失ってしまった事例もあります。また、社長や取締役の経営方針に対して誰も疑問を口にせず、会社の経営が悪化するケースもよく見られます。

変化を避けてしまう「現状維持バイアス」では、会社で新しいシステムがなかなか導入されない、などの事例が挙げられます。失敗を避けたい心理作用、慣れているものを好む傾向、過去の成功体験を引きずるなどさまざまな無意識が働いているかもしれません。人間は本質的に変化やリスクを避け、自分の心地良い場所から動きたがらず、自分の身を守ろうとする特性、不合理的な理由を探してでも、無意識のうちに現状を維持しようとする性質を持っています。

その他、命に関わると言われる「集団同調性バイアス」、自分自身に制限をかけてしまう「インポスター症候群」など、バイアス用語は200以上あると言われています。

大切なのは、客観的な視点でものを見ることです。自分のバイアスに気がつくことは簡単なことではありません。まずは、多様な属性と触れ、いろいろな経験をするのが大切です。日本は今後、ダイバーシティー（多様性）を受け入れないと経済が成長しないと言われています。次世代のリーダーは子供たちです。小さな頃からたくさんの経験をさせてあげよう心がけてほしいと思います。



gstudioimagen, Freepik.com